

35. オンラインお花見

医事万華鏡

一昨年来のコロナ禍より、働き方も否応なく変化し、大企業から中小企業まで、すっかりリモートワークが定着しました。リモートワークのメリットは、①時間の効率化②感染対策をとった労働環境を提供③固定費の削減④デジタル化の促進による労務の効率性⑤業務の継続性⑥クライアントとのテレカンの活用⑦多様な働き方が実現する雇用定着率の向上——が挙げられるでしょう。とりわけ、医師の世界では従来は国際会議等で海外に行くことが必須でしたが、今やオンライン会議で事を済ませられる時代になりました。ご年配の医師の間では、実際に会って親睦を深めたいとの声が多いようですが、若手医師や研究者の間では、一層国際会議のオンライン化を促進すべきとの意見が目立ちます。こうした新様式は、まさに時代の転換期に起きた「パラダイムシフト」であり、感染症が収束したとしても、オンライン化、リモートワークがなくなることはないでしょう。ところで、リモートワークが定着したことの最大のメリットとして、家族と過ごす時間が増えたという話はよく聞きます。それはすなわち、家族でのレジャーが増えたということでしょう。ただ家族という限られた「仲間」とのレジャー

は、ややもすると退屈になりがちです。ただ、今はまさにリモートの時代。新時代がもたらしてくれたツールを享受しない手はありません。リモートで体験できるイベントへの参加というのも、一味違った楽しみを与えてくれるのではないのでしょうか。

そして4月と言えば、まさに「お花見」の季節。従来ならば、皆で「目の前の桜」を囲みながら、お酒と共にワイワイ楽しむイメージでしたが、お花見のオンライン映像配信や桜の宅配も今では行われているそうです。

そもそもお花見は、奈良時代に天皇や貴族といった上流階級の人々が花鳥風月を歌に詠む文化があり、それが今に繋がるお花見の起源であったとされています。ただこの時代のお花見といえば、桜ではなく梅であったそうで、時代を経てその対象は梅から桜へと代わり、桜を愛でる花見の文化は、武士階級にまで定着していったそうです。江戸時代には、桜を愛でることはもちろん、桜への親しみの想いは庶民の食や文化へと具体化されるようになりました。まさに「花より団子」です。

さて新時代を体現する「オンライン化」。私の世代はこうした分野に全く疎い方が多いですが、新たなツールは積極的に使いこなしていきたいものです。一つの考え方に固執することなく、常に頭を柔軟にして事に当たる姿勢が若さに繋がります。ひとまずは、今年のお花見はオンラインで楽しもうと思います。

(JMS主幹・野村元久)

